

01 ネット時代の
成功例に学べ!

クレーンゲームになる
デジタルサイネージ

▶ 世界的なデオドラントブランドA社が新商品のプロモーションのために、見せるだけではない、インタラクティブなデジタルサイネージを設置した。

ギリシャ・アテネ市内で最も利用客の多いバス路線の停留所に大型モニターを設置。高さは2メートルほどあり、A社の新商品であるスプレーボトルを入れたクレーンゲームが映し出されている。前に人が来るとQRコードが表示され、それをスマートフォンで読み込むとゲームがスタート。モニター内のクレーンをスマホで操作してスプレーボトルをつかんで落とすことができると、モニター横の機械からその香り付きのサンプルをプレゼント。さらに自宅宛にその商品を1本送ることもできる。

バスを待つ時間の暇つぶしになると好評で大きな話題となって、わざわざこのクレーンゲームのためにバス停を訪れる人もいた。

02 繁栄企業の
成功要因を探る

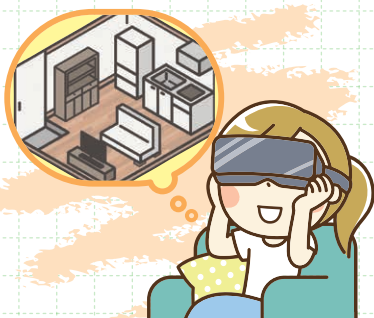
バーチャルも楽しめる
家具・インテリアの体験型店舗

▶ オンラインを中心に展開してきた家具・インテリアブランドB社が昨年12月、東京・渋谷に体験型ストアをオープンさせた。

店内では新商品を取り入れて季節に合わせたルームコーディネートを表示、オンラインでは伝わらない使用感がわかる。店内のスペースでは同社SNSチームと交流するオフ会などを開催する予定だ。

さらに、この店独自のサービスとしてシミュレーションコーナーがある。B社の家具配置の3Dシミュレーションができるスマホアプリで間取りや予算に合わせた部屋をデザインしてアップロードしておくと、店内に用意されたVRゴーグルでそのルームコードをバーチャル空間に再現。欲しい家具が間取りに合うか、自分のイメージ通りか確認できる。

リアルだけでなくバーチャルも体験できるストアとして開店早々から注目を集めている。



Check! 進化するプロモーション手法に
要チェック! 必要な基礎知識

▶▶▶ 経営資源を評価して
自社の強みを分析するVRIO分析《前編》

競争社会で勝つためには自社の「強み」を活かすことが重要である。だが、その強みを客観的に把握することは難しい。そこで役立つのが**VRIO分析**である。

● 経営資源を見極める4つの視点

VRIO分析とは、企業が持つ経営資源（リソースや能力）が競争優位につながるかを評価するフレームワークである。その経営資源について以下の4つの視点から評価する。

- **Value【価値】**
顧客がそれを求め、利益に結びつくか
- **Rarity【希少性】**
競合他社と比べて独自性があるか
- **Imitability【模倣可能性】**
競合他社が真似できるものか
- **Organization【組織】**
経営資源を活用できる組織体制が整っているか

この4条件がすべて揃ったとき、経営資源は持続的な競争優位をもたらす。

Value（価値）がないと競争は劣位となる。Rarity（希少性）が欠けると競争は均衡する。希少性があるImitability（模倣可能性）が少ない経営資源は持続的に競争優位をもたらす可能性が高い。Organization（組織）が整っていなければ実行は困難になる。

● VRIO分析のメリット

競争優位の源泉を明確化できる

自社の強みが何によって、どの程度の持続性を持って、競争優位につながるかを体系的に把握することができる。

経営資源への投資優先度を判断できる

価値が低い経営資源は改善や売却を検討し、優位性の高い資源には重点投資するなど、経営判断がしやすくなる。

戦略立案の実効性が高まる

分析結果を踏まえることで、差別化戦略や成長戦略を実現するための施策を裏付けある形で策定することが可能になる。

さらに、VRIO分析はSWOT分析や3C分析など他のフレームワークと組み合わせて、自社の経営資源と市場環境の統合的な理解に役立てることもできる。

では、どのようにVRIO分析を行うのか。具体例で考えてみよう。

次号へ続く